基幹病院等の連携に関する協定締結式 【発言集】

３　あいさつ

**【湯﨑知事】**

本日は，４基幹病院並びに県医師会，広島市医師会の皆様をはじめ，松井市長にもご臨席をいただき，「基幹病院等の連携に関する協定」を締結できますことを大変心強く，うれしく思っております。

御案内のとおり，我が国は，超高齢社会を迎えるとともに本格的な人口減少社会に突入しました。人口減少問題は，生産年齢人口の減少による経済活動の縮小を招き，また，高齢化の進展は，医療需要の増大につながることが想定されます。

こうした中，県民・市民の皆さんが将来にわたって安心して暮らすことができるよう，限られた医療資源を最大限に有効活用しながら，質の高い医療提供体制と地域包括ケアシステムを整備することが喫緊の課題であります。

とりわけ，広島都市圏におきましては，高度な医療資源が集中し，高度急性期を担う４基幹病院は長年にわたって地域住民に安心を提供してきました。今回の連携協定はそれぞれの病院の強みとスケールメリットを活かしながら機能分化と連携を進めるとともに，民間の医療機関の役割も尊重しながら，より効率的で高度な医療を提供することが目的であります。

こうした連携の取組は，超高齢社会における医療体制のリーディングモデルとして，全国に先駆けて取り組む価値があるものだと考えています。これまで以上に医療関係者が一致団結して広島のポテンシャルを最大限に引き出し，世界トップレベルの医療機関と肩を並べるような，夢のある医療クラスターを実現していくことを祈念しまして，私からのご挨拶といたします。

**【松井市長】**

本日ここに、広島都市圏の基幹病院等の運営に関わる８者が一堂に会して、より質の高い効果的・効率的な医療提供体制の構築を進めるための連携協定，すなわち基幹病院等の連携に関する協定を締結できますことは、本市にとりましても大変喜ばしいことです。

高齢化の進展に伴い、医療需要は更に高まっていくことは確実であります。そして，医療の高度化・複雑化などにより、医療水準の向上も求められます。

こうした中で、市民・県民が将来にわたって安心して地域で生活することができるようにしていくためには、質の高い医療サービスを安定的に提供していくことが必要になります。そのためには，県立、市立、大学、日赤の各病院、そして、民間の医療機関が、それぞれの役割を担いながら、かつ，緊密に連携していくことが欠かせません。

今回の連携協定に基づき、基幹病院等の機能を基本的に維持しながら、それぞれの病院の強みを伸ばしたり、集約したりすることにより、医療機能の分化・連携を進めることで、全体として広島都市圏の医療水準の向上に寄与するとともに、若手医師の育成をはじめ、地域における医師の安定的な確保にもつながっていくものと考えており、こうした取組により、どこに住んでいても必要な医療サービスを受けることができる環境の整備を進めていきたいと考えています。

本市としましては、今後とも、広島県、県・市の医師会、基幹病院等とともに、広島都市圏の医療提供体制の更なる充実強化を図ってまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

終わりに、本日御列席の皆様の今後ますますの御活躍と御健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

５　コメント

**【工藤副病院長】**

広島県におきましては，医学部は広島大学にしかございませんので，大学が果たす役割は非常に大きいものだと心しています。若い医療人の確保に関しましては，現在混沌として，混乱を招いておりますが，専門医制度，これをいかに上手に運用していくということにかかっていると考えています。その運用に関しまして，今日協定を結びました病院と協力してやっていきたいと思っておりますので，どうぞよろしくお願いします。

**【浅原病院事業管理者】**

広島県・広島市の医療を守るためには，地域医療を支える人材の育成が最重要課題だと思っています。同時に，中山間地域の医療機能を守ることも重要な課題と言えます。一方で，都市部では，医療の高度化への対応や限りある資源の有効活用という視点から，医療資源の一部集約化と役割の明確化が必要です。これらの視点を踏まえると，今後，これまでの病院完結型医療から，地域完結型医療への転換が急がれていると思います。広島高精度放射線治療センターは，その先行モデルであり，基幹病院を中心にこれを支え，機能の充実を図っていかなくてはならないと思います。一方で，我が国医療を守るためにも，病院の安定的経営が重要であることから，国に対しても，地域完結型医療へのインセンティブとなるような規制緩和を積極的に提案していきたいと思います。引き続き，関係者のみなさんと，勢力的に議論を重ね，将来に渡って，高度で安全な医療を広島県民・広島市民に提供できるよう努めてまいりたいと思いますので，引き続き，ご理解とご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

**【影本理事長】**

平成２６年４月に誕生しました広島市立病院機構，皆様ご存じのように，広島市民病院，安佐市民病院，舟入市民病院，そして，総合リハビリテーション病院，この４つの病院から構成されておりますけれども，厳しい医療情勢の中，地方独立行政法人の特徴を活かしまして，一群として運営，そして，診療しております。この４病院の中で，広島市民病院と舟入市民病院は，デルタの中央に位置しておりまして，今後も，地域の近接した基幹病院などとしっかりと連携をしながら，広島都市圏における医療の質の向上，そして，効率的な運営に協力をして参りたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

**【古川院長】**

広島赤十字・原爆病院の古川でございます。我々は，赤十字病院としての立場，および，世界で初めての原爆病院としての立場がございます。また，この４病院の中では，唯一民間病院でございますので，民間病院としての立場，これらの立場をしっかり考えながら，広島医療圏に少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

**【檜谷副会長】**

４基幹病院の具体的な事業連携として，昨年，広島がん高精度放射線治療センターが開設されました。運営の主体として，広島県医師会が任命されて，現在，推進しているところですが，この４基幹病院の水平連携について，このセンターの事業をきっかけに，県医師会としても，４基幹病院の連携について，協力していきたいと思います。同時に，また，広島県医師会の使命としては，基幹病院と，民間病院との垂直連携の要としての大きな役割があると思っています。このことについても，責任と使命を果たしていきたいと考えております。どうそよろしくお願いいたします。

**【松村会長】**

地元医師会といたしましても，この協定で，広島の医療が大きく前進するであろうということに，非常に期待をしております。この協定によりまして，４基幹病院の特色と役割分担が明確になっていくと思いますので，文字どおり，広島の医療の中核となっていただけるだろうと思います。そういった中で，この度，この４病院が核となりまして，広島全体のネットワークで進めていただければ，この４基幹病院を中心に，広島のすべての病院，診療所が加わった，ネットワーク型の，オール広島医療チームができるだろうと期待しておりますので，どうぞよろしくお願いいたします。